

ました政次 議員報告

No.83 令和4年
自民党市議団

◎皆様の声をお寄せください。

3



PROFILE

昭和25年生まれ(現在71歳)
平成6年 初当選
副議長1期、議長3期、
県市議会議長会 会長を歴任
現在7期目

自民党 逗子市市議会議員

春の増刊号

令和4年度の政策から

財政再建

前市長の負の遺産 財政緊急事態宣言(財政調整基金残1億円)の財政状況をこの三年間で完全に解消(令和3年度末基金残高23億7千万円)し、これからのまちづくりに向けての財源を確保致しました。

自主財源のほとんどを住民税に頼ってきた状況を変えて、新たな自主財源(自走できる自治体への財成構造の転換)を作る為に就任当初より企業誘致と起業促進につながる政策を展開してきました。成果はまだまだ道半ばですが、着実に成果は上がっていると思います。特に女性の社会進出が進み子育て中であっても起業のチャンスをつかめる様な環境整備(プラトホーム逗子ビズの展開、ワーケーションについては新しい働き方を模索し、企業によるワーケーションの実施を推進するための事業の展開)を進めています。

「チャレンジ! 逗子カーボンニュートラル2050」を宣言

国が脱炭素社会の実現として2050年までのカーボンニュートラルを目標に挙げている中、本市でも宣言をし、脱炭素に向けた取り組みの更なる充実、強化を図ります。住宅都市という本市の特性上、市民の皆さまお一人おひとりの理解とライフスタイルの変革(更なるごみの分別やソーラーパネルの普及)が不可欠です。市民、事業者の皆様と一体となって、2050年温室ガス排出実質ゼロを目指して取り組んでまいります。

令和4年度コロナ対策支援

新型コロナウイルス感染症対策基金の残高が約5億円あり、今年度約1億9千万円つくのでこれらの資金を有効に使っていきたいと考えます。現在予算化されているものは、事業者支援、商工会の相談業務、市民祭りの補助金(感染防止)の増額。

自然災害に強く、安心安全に暮らせるまちづくり

近年風水害等により斜面地の崩落事故が頻発している現状を鑑み、行政でも危険個所の点検や整備を進めていますが、ほとんどは民有地で地権者の理解と協力がなければ整備が進まないのも現実です。市民の生命と財産を守るため粘り強く取り組んでいきます。

令和4年度の当初予算には2年度から拡充してきた防災工事の補助金（80万円が240万円にアップ）が、単に防災工事を行うためだけでなく、危険個所の管理ツールや機器購入等にも使えるようになります。行政として取り組める工事（急傾斜崩落防止工事）を県と共に協力して順次進めます。

真下コメント

住民自治協議会や自主防災組織・避難所運営会などの活動が十分できる様支援し、新しく拡充された地区防災拠点との連携にも協力して地域の防災力・減災力を高めて行き、いざと言う時に備えます。



子育てしやすく、高齢者が暮らしやすいまち

中学校給食がランチボックス方式から食缶方式になり、より質の高い給食が提供できるようになります。

真下コメント 今年の9月から給食の方式がアレルギー除去食にも対応した食缶方式による提供になります。今までは希望を取って提供していた給食が、この機会をとらえて生徒全員が同じ給食を食べる方式になります。私は中学校給食がスタートして以来、今の提供方法には反対でしたので今回の変更で食育の観点からも歓迎したいと思います。

久木小学校の校舎長寿命化改修の基本設計予算が決まりました。これからかなり時間が掛かるとは思いますが、子供たちが安心して快適に学べる施設の完成を楽しみにしましょう。

真下コメント 人口減少が進む将来を見据え、いかに子供たちの教育環境を整えていくのか、時間と大きな財源を投入する事業ですから、しっかりと基本設計をチェックしていきたいと考えます。

狭あい道路拡幅整備事業

私のライフワークと言っても良い4メートル未満の市道の拡幅解消に対する事業が令和4年度に一步前進することが決まりました。セットバック部分の補助制度を個人だけではなく事業者も補助対象とすることでスピード感をもって拡幅整備を図ります。また、要綱を改正し地権者の同意をもって早期の拡幅整備に努め、防災活動や生活環境の向上につなげます。

真下コメント 市道の70%近くが4メートル以下の狭あい道路の解消はとてつもなく時間が掛かることですが、これからも粘り強く行政に訴えて市民の安全・安心に繋げていきます。